

総務常任委員会視察研修報告書

視察地 : 東京都、岩手県、北海道
視察先 : 東京都千代田区永田町・岩手県紫波町・北海道函館市
実施日 : 平成 28 年 7 月 14 日(木)～16 日(土)
旅 費 : 1,141,200 円 (公費)

【視察目的】

1. 東京都千代田区永田町議員会館(内閣府・総務省)
 - ・ 公職選挙法、投票環境整備について
 - ・ P F I 事業について
2. 岩手県紫波町
 - ・ オガールプロジェクト 視察研修
 - ・ P F I 事業について
3. 北海道函館市
 - ・ 函館市中央図書館視察、施設見学、障がい者支援サービスおよび市民文芸(賞)について

【視察結果】

1. 第二議員会館内において、総務省自治行政局選挙部選挙課の田村一郎理事官の説明により、「国会議員の選挙等の執行経費の基準に関する法律及び公職選挙法の一部を改正する法律の概要」、投票環境の向上方策等に関する研究会中間報告について研修を深めた。続いて、内閣府民間資金等活用事業推進室の直原(じきはら)史明企画官から、P F I 事業についての現状と課題、今後の展望等々について説明を受けた。
その後、山本公一衆議院議員の中尾秀樹秘書の引率により、議員会館内および国会議事堂内を視察した。
2. P F I 事業の先進地である岩手県紫波町の事業の建築物について視察し、企画総務部企画課公民連携室の蒲田千市室長の説明により、紫波町の P F I 事業の現状に関する説明を受けた。当町では、「循環型、協働、公民連携」を市政の柱に据え、企業立地研究会を設置したり、市場調査にて市民の意見や考えを聞く説明会を 100 回以上も開催したりして、華やかな商業開発をしないことを念頭に置いて事業を展開しているとのことであった。「民間が身の丈で作り、町が公共部分を買取る。」という言葉と「行政+民間=豊かな公共」という言葉が印象に残った。
3. 北海道函館市の中央図書館では、函館市生涯学習部生涯学習文化課の円山牧子主査の案内により、函館市中央図書館の全ての施設見学の後、図書館運営の現状についての説明を受けた。函館市中央図書館では、土地、建物で 43 億円の費用を

かけての建設との説明であった。

【視察効果及び西予市での応用】

1. 議員会館内においての、総務省自治行政局選挙部選挙課の、田村一郎理事官の説明により、「国会議員の選挙等の執行経費の基準に関する法律及び公職選挙法の一部を改正する法律の概要」、投票環境の向上方策等に関する研究会中間報告について研修を深めた。
2. 続いて、内閣府からの、P F I 事業についての説明においては、地域事業者の参入について活性化するのにか心配をしていたが、P F I 事業というのは長い年月行うものであるため、将来分からない事が多くある中で将来に責任を持てる時がP F I のやり時であると学んだ。

西予市においては、S P C（特別目的会社）が市内にいくつかできて、そこに地元の企業が入れるのが理想的な形だと思うが、一つのS P Cしか生まれていない時にP F I 方式を導入する事のリスクはあるのかという事について、契約の際の工夫（地元事業者を何社入れる等）、また地元事業者しか知らない事を提案時に投げかける等を工夫しなければリスクがある。

S P Cが2・3社できて、その中から行政側が選択していける体制がとれば選択の余地はあるが、中々最初の段階では難しい事が分かった。

P F Iを勧めるのは競争原理が働くからであり、1社しか応札しないというのは最悪のケースであり、後はずっとその事業者のいいなりになってしまう。そのためには、1社しか応札しない場合は一度やめる対応もある事を学んだ。まさに議会のチェック機能が必要であると感じた、注意して進めていきたい。

3. 次に、岩手県紫波町の視察では、紫波町企画課公民連携室、鎌田室長の説明で「オガールプロジェクト」を成功事例として見学した。西予市のようにP F I方式で一括に中心的企業に任せるのではなく、一つずつ施設を順次造ってゆき、付加価値を付けて成功事例に導いていた。ポイントは1社しか応募がなかったときに、どう対応するのか、撤退するのか、国県の期待を受けて西予市が突き進むのか、撤退するのかよく見極めて態度を決定する必要があると思われた。

4. 函館市中央図書館

設置の目的は、施設の狭隘化と老朽化、市街地の拡大に伴う地理的利便性、情報システムの導入による利用者サービスの向上、地区図書館とのネットワーク化による連携強化など進めるためである。また、函館市は歴史があり、文化的な遺産も多いことから、資料や情報などの蓄積・整理に関しても力を入れ、そうしたものを研究者から一般市民まで幅広く提供することによって「函館の文化」の創造とまちづくり、市民の生涯学習の推進に結び付けている。

函館市中央図書館郷土の歴史・文化に関しても様々な工夫と配慮があり、利用者本位にハード・ソフト両面が組み立てられており、西予市においても図書館

建設が計画されているが、学ぶ点が数多くあった。

平成 28 年 9 月 20 日

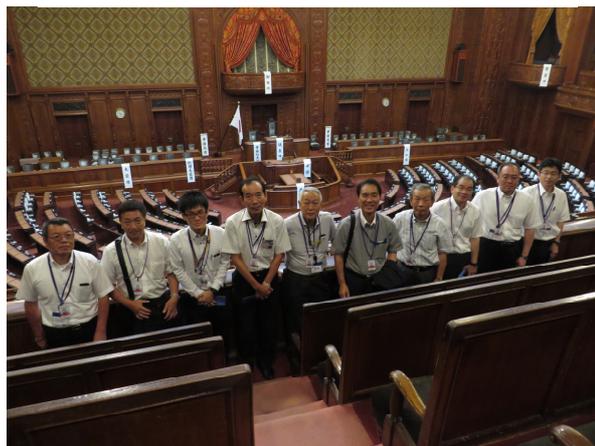
総務常任委員会

委員長 酒井 宇之吉

1-1 第二議員会館内での研修



1-2 国会視察



2-1 岩手県紫波町での研修



2-2 オガールプロジェクト施設



3-1 函館中央図書館内部の様子



3-1 函館中央図書館での視察

